

天穹のクピディタス編 妄想イメージソング

『追想の月』

作詞・作曲・歌：なごん

▼歌詞

この静寂の中 ただ一人
欲望の渦へと 吞まれていく

何度も抗い続けた
赤に染まる手 強く握り締め
意識の向こうへと 落ちていく
終わらない明日へ

ずっと探してた 僕を救う声
手を伸ばせば 届きそうで
きっと太陽が 月に隠れても
その光はまだ 奪われはしない
いつでも 信じて

始まりの鐘が 鳴り響く
いたずらに記憶 吸われていく

繰り返し 壊し続けた
獣のように 本能のあるがまま
奪うことでしか 進めない
この命に終わりを

ずっと願ってた 君を救いたい
この運命を 乗り越えなくちゃ
きっと夜空を 切り裂く流星が
火花を散らして 形を変える

孤独に選ばれたその身に
宿る因果が 闇を引き寄せて
意識の向こうへと 落ちていく
本当の明日はどこへ

ずっと探してた 僕を救う声
手を握れば 柔らかく笑う
きっと太陽が 月に隠れてしまっても
その目に光を灯す
いつでも 信じて